

## 「維持透析患者を対象とした妊娠および出産の全国調査」に関する研究計画

平野寛子<sup>1</sup> 上田知未<sup>1</sup> 森 潔<sup>1</sup> 中谷英仁<sup>2,3</sup> 森 典子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>静岡県立総合病院腎臓内科 <sup>2</sup>静岡県立総合病院臨床研究部

<sup>3</sup>大阪大学大学院医学研究科医療データ科学寄付講座

**【背景】** 女性の維持透析患者は月経および性腺機能の障害により妊孕性が低く、また妊娠した場合には早産や子宮内胎児発達遅延などの合併症が多く生児率は低いとされる。わが国における透析患者の妊娠の管理と予後についての全国的な調査は近年行われておらず、その実態には不明な点が多い。

**【目的】** 女性透析患者の妊娠および出産の実態調査を行い、妊娠の経過と生児の出産に影響する要因を評価する。

**【対象者】** 国内で維持血液透析または維持腹膜透析を受けている末期腎不全患者のうち、2012年1月1日～2016年12月31日の期間に15～44歳であった女性患者

**【研究方法】** 静岡県立総合病院が中心となり、日本透析医学会のご支援のもと行う。(1) 対象者に透析患者の妊娠に関する認識や挙児希望、妊娠の有無、不妊治療の既往などについてアンケート調査する。(2) 対象者を有する透析施設の医師に、対象者の人数、対象期間における妊娠の有無、妊娠の回数についてアンケート調査し妊娠率を評価する。(3) (2) にて妊娠患者の報告があった透析施設に、患者背景（妊娠判明時の年齢・透析期間、原疾患、妊娠が確定した妊娠週数、妊娠中の合併症、分娩の方法、帝王切開の場合の原因など）・透析前の血圧・ドライウェイト・内服薬・臨床検査値（Hb、Alb、Cre、BUN、K、Ca、P）・出産状況（転帰、合併症、在胎週数、出生時体重、早産の場合の原因）・透析処方（透析処方を変更した妊娠週数、変更前後の透析処方<血液透析：モダリティ・透析時間・透析頻度・透析膜・抗凝固剤・透析液、腹膜透析：尿量・残腎weekly Kt/V・透析weekly Kt/V>、造血剤）などの情報の提供を依頼し、妊娠の経過と生児の出産に影響する要因を評価する。

**【結語】** 本研究により透析患者の妊娠および出産に関する新しい知見が集積され、透析患者の妊孕率および生児率の改善につながることを希望している。